



消防千葉

2015 No.540 平成27年10月号

平成 27 年 10 月 1 日 編集兼発行人
千葉市中央区仁戸名町666番地2 千葉県消防会館内
公益財団法人千葉県消防協会会長 石橋 毅
TEL043(263)9885
郵便番号 260-0801
ホームページ <http://business4.plala.or.jp/chisyo/>
メールアドレス chisyokai@bz04.plala.or.jp



大多喜町役場中庁舎（大多喜町）夷隅支部

巻 頭 言

「安心・安全なまちづくりを目指して」

八千代市消防本部 消防長 椎名 次夫



八千代市は、都心から30キロ圏の位置にあり、東京のベッドタウンとして発展してまいりました。昭和32年に全国初の住宅団地が完成し人口が急増、昭和42年1月1日には、人口4万1,574人で市制を施行しました。その後、昭和48年に、人口が10万人を超え、昭和50年には、人口10万人以上の都市で全国一の人口増加率を記録しました。平成8年4月には、八千代市と都心を結ぶ東葉高速鉄道が開通して以来、沿線を中心に大型店舗の進出や高層マンションが建設されるなど新しいまちづくりが進み、人口は19万人を超え、県内の中堅都市として現在も発展しております。

消防組織は、昭和39年11月に現在の消防署の前身である消防団常備部を職員8名により発足、その後、政令指定により、昭和42年4月に消防本部及び消防署を設置しました。平成19年には、基礎免震構造の消防本部庁舎が完成し現在は、1本部4課、2消防署、3分署、定数210人にて消防行政を推進しております。

一方、消防団は、全国的にサラリーマン化など社会情勢の変化により、団員数が年々減少傾向にあります。八千代市の消防団員の充足率は、平成27年9月1日現在、96.4%（定数309人、実員298人）と、高い水準を維持しております。昨年は、ポンプ自動車（CD-I型）2台の更新や、複雑多様化する各種災害に対応するため、消防団活動時における危険を予知するための能力を養成する「消防団危険予知訓練（S-KYT）」の研修を実施するなど、装備の充実並びに消防団員の知識の向上に努めております。また、女性消防団員は現在、団本部に25人が在籍し、応急手当指導員資格と女性の持つ対応の柔らかさを生かし、普通救命講習会や住宅用火災警報器設置等の普及啓発活動を実施しております。特に11月に開催された「第20回全国女性消防団員活性化ちば大会」では、千葉県代表として参加し、「育てよう 未来につながる女性消防団活動」と題して、全国から参加した3,800人の女性消防団員に向けて活動事例を発表するなど、年々活動の場を広げております。

終わりに、「安心・安全」は、市民の願いでもあり、消防職・団員の願いでもあります。今後も地域の安全を守るために、我々消防職員と地域に密着した消防団が車の両輪となり、一人ひとりが創意工夫し、目的意識を強く持って、「安心・安全」なまちづくりを進めてまいります。

第36回 九都県市合同防災訓練・千葉県会場訓練 「佐倉市城址公園自由広場」を主会場に実施！

本訓練は、「第36回九都県市合同防災訓練実施大綱」に基づき、「子ども・女性と防災」及び「市民協働と防災」の視点を踏まえた住民参加型の訓練を充実させることにより、地域住民の減災への備え等防災意識の高揚を図るほか、公的機関が行う訓練ではブラインド型訓練を一部導入することで災害対処能力の向上を図り、もって地域住民の生命・財産を災害から守り、安全で安心な生活を確保することを目的とする訓練で、その訓練の概要は以下のとおりです。



会場を視察する森田知事、本間県議会議長

訓練概要

1 実施日時・場所

日時 平成27年8月29日(土) 10:00～11:30
場所 佐倉城址公園自由広場ほか
(佐倉市城内町地先)

2 主催

千葉県、佐倉市、公益財団法人千葉県消防協会

3 訓練規模

- (1) 参加機関 89機関
県・市のほか、自衛隊、警察、消防機関、医療関係団体、ボランティア団体、ライフライン事業者等
- (2) 参加人員 約5,000人

4 訓練想定

震源を佐倉市直下とするマグニチュード7.0の地震が午前8時に発生。
震度6強の地域は、佐倉市、成田市、四街道市、印西市、酒々井町、栄町で、佐倉市内では、約9,300棟の家屋が倒壊。



5 今回の訓練の特徴

- (1) 被災者の捜索、救出、搬送訓練において、救出者に対し被災者の位置や数を明らかにしない「ブラインド化」を初めて行うことにより、現場対応能力の強化を図ります。
- (2) 大規模災害時の遺体取扱を適切に行うため、関係機関の連携を確認します。
- (3) 災害における「自助」「共助」に必要な知識、技能等を向上させるため、住民（来場者）が体験する訓練に重点を置きます。

<主な訓練項目>

○各機関の連携強化と防災能力向上

- ・土砂、倒壊ビル及び埋没車両等における被災者の救出救助訓練
- ・ヘリコプターによる上空からの情報収集や負傷者の搬送を行う航空機運用訓練
- ・医療機関が応急救護所においてトリアージ等を行う医療救護訓練
- ・災害で亡くなられた方の検視・検案・身元確認等を行う多数遺体取扱訓練

○住民の防災意識・技能向上

消火器やAEDの使い方、ロープワーク、身近な資機材を活用した応急手当、分電盤やガスマイコンメーター復旧操作、災害用伝言ダイヤル操作等





森田知事

蕨佐倉市長

石橋消防協会会長

平成27年度 千葉県石油コンビナート等防災訓練の実施



「第36回九都県市合同防災訓練実施大綱」及び「千葉県石油コンビナート等防災計画」に基づき、南関東地域における直下地震に備えて特定事業所、共同防災組織が主体となり防災対応型訓練を実施することにより、災害応急対策の整備・運用の充実を図るとともに、特定事業所、共同防災組織及び防災関係機関相互の応援体制の確立に資するため、平成27年8月17日(月)午後2時から4時まで旭化成ケミカルズ株式会社川崎製造所千葉工場及び周

辺海域において石油コンビナート等防災訓練が実施されました。

訓練は千葉県石油コンビナート等防災本部が主唱し、千葉県、袖ヶ浦市、千葉市、市原市、京葉臨海中部地区石油コンビナート等特別防災区域協議会、袖ヶ浦市石油コンビナート等特別防災区域協議会が主催したもので、千葉県や千葉海上保安部など15機関から約230名が参加しました。

南関東地域を震源とする地震が発生した。その規模はM7.3、袖ヶ浦市の震度は7を記録した。タンク受入配管が破損し漏えい火災に発展し、点検員が閉じ込められたと想定し、次の訓練を実施しました。



1 陸上訓練

- ① 地震応急点検訓練
- ② 発見連絡通報訓練
- ③ 現地指揮所設置訓練(事業所)
- ④ 現地指揮本部設置訓練(消防本部)
- ⑤ 災害広報・道路交通対策訓練
- ⑥ 救出救助訓練
- ⑦ 土のう構築訓練 等

2 海上訓練

- ① 情報伝達訓練
- ② 現地指揮本部設置訓練(事業所)
- ③ 初期対応訓練
- ④ 洋上ガス検知訓練
- ⑤ 現地調整本部設置訓練(海上保安部)
- ⑥ オイルフェンス展帳・回収訓練
- ⑦ 海中転落者救助訓練 等



第34回全国消防殉職者慰霊祭

平成27年9月10日(木)、「第34回全国消防殉職者慰霊祭」が日本消防会館ニッショウホールで殉職者遺族、各県の消防協会関係者等の出席により執り行われました。

昭和23年の自治体消防発足以来、旺盛な郷土愛護と崇高な消防精神に燃え、全国の消防職団員による地域に根ざした防災活動の展開のなかで、残念なことに毎年消防殉職者が発生しており、その御霊は新たに合祀した6柱を加えて5,688柱を数えております。

式では秋本敏文日本消防協会長の式辞、安倍内閣総理大臣、高市総務大臣及び遺族代表の追悼のことは、参列者の皆様の献花が行われた後、江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)が披露されました。

千葉県からは遺族の方4名と佐倉市及び山武市職員、千葉県消防協会役員など9名が参加しました。



式辞を述べる秋本日本消防協会長



安倍総理大臣の追悼の言葉



高市総務大臣の追悼の言葉



遺族による献花



(社)江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)

消防団員の入団促進講座の実施 (公財)千葉県消防協会

平成27年9月6日の日曜日に、千葉市文化センターのセミナー室に5人の消防団長の外100人を超える男女が参集した。公益財団法人日本消防協会主催、同千葉県消防協会共催の「平成27年度新時代に対応した消防団運営方策の普及に係る講座」に出席するために、日曜日にも拘わらず県内各地から集まった熱心で逞しい男女である。

今回のテーマは、東京都北区赤羽消防団副団長の小澤浩子さんの講演「我ら 消防団!! ～地域住民へのPR 若年層の入団促進～」と題して、漸減傾向にある消防団に若者を呼び込むための取組について熱く語っていただいた。

小澤先生は、元文化放送のアナウンサーであったキャリアウーマンであり、昭和60年に赤羽消防団に入団以来、地域の安全安心のために消防団活動を行う傍ら、消防庁・消防団確保アドバイザーなど公職を歴任され、現在は総務省人材力活性化検討会議委員や茨城県防災会議委員などを務めておられる方である。



先生のお話は、徳川吉宗時代の町火消以来の伝統を有する消防団員がその数を漸減させている原因を分析し、一方で女性消防団員が増加している現状を説明し、特に女性消防団は新潟県のある島で男どもが漁に出かけた後の地域を守る女性たちから始まったとして、男どもに比してそんな色ない活動を展開した輝かしい歴史があること、消防団の機能を見直して女性でも活動可能な状況が整備されること、そして若者を消防団に誘引する様々な取り組みが各地で展開されていることなど豊富な実例を引用して様々な方策がありうることを判り易く説明して頂いた。例えば、その施策の一例として、「市民を守る魅力ある消防団づくり」基本計画の立案に着手した自治体があること、「消防団確保推進委員制度」を創設した自治体があること、「消防支援隊」の設置により地域ぐるみで消防団応援体制を構築した例もあることなどが紹介された。また新たな消防団員の人材確保方法として、学生消防団を創設して学生のころから地域貢献に目覚める者を発掘し、将来的には就職の際のアピールポイントとして活用するなどの、最近の取組傾向も紹介された。こうした傾向が一層進展することを期待したい。また、先生は、消防団員の活動が夫や妻などの配偶者の理解と家族によって支えられていることも忘れてはならないと力説されていた。このことは、家族は地域によって支えられ、地域は家族によって支えられているという東日本大震災で改めて確認された「絆」にもつながる理解であろう。消防団のPRにもっと積極的に取り組まねばならないと実感する講座であった。終了後に小澤先生に複数の参加者から熱心な質問もあったことから、大成功の講座であったと自賛している。



わが町の消防団 ① いすみ市消防団



いすみ市は、千葉県の南東部、九十九里浜の最南端に位置し、全域的に標高は高くないものの、起伏に富んだ丘陵地を夷隅川や落合川及び支流が流れ太平洋へ注いでいます。

気候は比較的温暖で、豊かな海と肥沃な大地からの恵をうけており、千葉ブランド水産物認定品で水揚げ量日本一の「外房イセエビ」や「太東・大原産真蛸」のほか、器械根サザエやヒラメといった様々な種類の海の幸が水揚げされます。また千葉県の三大米の一つに数えられる「い

すみ米」や「岬の梨」などの農産物も収穫されます。

風光明媚な田園地帯や海岸線など自然景観に恵まれているとともに、サーフィンなどの海洋レジャーの適地として首都圏などから多くの観光客が訪れるほか、近年は「都会に近い田舎」として移住を希望される方も多く、魅力あふれるまちです。

いすみ市消防団は、消防団長以下934名、14分団40部で構成され、団本部指揮車2台、救助資機材搭載型ポンプ車1台、多機能型消防車両1台、可搬ポンプ積載型照明車1台、消防活動二輪車3台、消防ポンプ車37台の合計45台の車両を配備し、常備消防と連携を図りながら日夜活動を行なっております。

昨年11月には、総延長約21.5kmの海岸線を持つ本市において、内閣府・千葉県・いすみ市主催による大規模な「津波避難訓練」が実施されました。その津波避難訓練において消防団員は、住民を緊急避難場所へ安全に誘導するための情報伝達・広報訓練、海岸線にある高台から津波到達状況や海岸線及び漁港付近等の被害状況の確認・報告を行なう津波監視訓練のほか、水消火器による消火体験や多機能型消防車両の装備展示などの防災啓発、行方不明者の搜索訓練などに参加し、改めて消防団員に与えられた使命の重要性を再認識したところです。

また、12月には総務省消防庁より、救助資機材搭載型消防ポンプ車両を無償貸与していただきました。この車両には消火資機材はもとより、電動式油圧コンビツール、エンジンカッター、チェーンソー、コンクリート破碎器具、自動体外式除細動器（AED）、救命胴衣などの救助資機材を搭載しておりますので、今後想定されている南海トラフ巨大地震や首都直下地震等の広域かつ大規模地震及び、近年全国各地で発生している台風等の大規模自然災害に備え、消防署員の指導のもと定期的に取り扱い訓練を行なっております。



今後も、団員一人一人が「地域の安全と、地域住民の生命・身体・財産は我々消防団員が守る」との強い信念を持ち、地域防災の中核として活動していきたいと思っております。



わが町の消防団 ② 香取広域市町村圏事務組合多古町消防団



多古町は、千葉県の北東部に位置し、都心へは約70km、千葉市へは約42km、世界の表玄関「成田国際空港」の東側に位置しており、人口15,259人（H27.5現在）、総面積72.68km²の町である。

町中央部を南北に流れる栗山川の流域は平地で水田が広がり、北部及び東部は、台地で畑地帯となっており、お米は日本の米作り百選にも選ばれたおかずのいらないご飯「多古米こしひかり」や、全国屈指の生産量を誇る大和芋、肥沃な農地で生産される数々の野菜や特産品が栽培されております。

地名の由来の一説として、かつて海底が隆起して陸地となり、多くの湖が出来たことから「多湖（多古）」という地名になったとも言われている本町は、栗山川の豊かな水と田園風景、丘陵地の色とりどりの緑によって、自然あふれる美しい町となっています。

我が町の多古町消防団は、昭和26年の町村合併により多古町消防団に改編830名の団員で発足以来、昭和44年佐原市外五町消防組合と広域化を図り、平成18年の平成の大合併により、現在の香取広域市町村圏事務組合多古町消防団として、飯田団長以下本部役員13名7分団44個班、団員508名を保持し、地域住民の安心安全な町づくりのため昼夜を問わず多岐にわたり活動しています。

本消防団の年間行事について紹介しますと、4月に新役員を迎え、「班長以上の会議」を始めとして定期的に、年7回以上の会議を開催し、団員の声を広く公聴し討論検討しています。

各種訓練では、春には新入団員の基本消防訓練及び救急訓練を実施し、全団員が規律訓練及び機械器具の取り扱いを習熟し、また、心肺蘇生法及びAEDの取扱いを普通救命講習会により習得、救命処置や救急知識の向上に努めています。また、香取支部操法大会出場班は、仕事後の貴重な時間の中で厳しい訓練を実施し、消防技術の向上、団員相互の連携を強化しています。



夏になると多古町消防団の伝統である酷暑の中での夏季訓練に備え、団幹部は週3回夜間に、小隊、中隊、大隊の指揮訓練を実施し、8月の夏季訓練当日には早朝から規律訓練、大隊訓練を行い、人員、機械器具点検、部隊行進、実戦的放水訓練を実施。町長や町議会議員による観閲を受ける非常に厳しい訓練を行い士気の高揚を図っています。

秋には、大規模災害に対応するため、全班による約1.5kmの長距離中継送水訓練を実施し、消防ポンプの取り扱いや機械器具の点検・整備要領の習得をしています。



冬になると火災期に向けての団員一人一人の防火意識を高め、年末には歳末特別警戒を行い住民の安寧を守り続けています。また年明けに行われる出初式では、その年の多古町の安全を誓い、消防精神の高揚を全団員で図っております。昨今では若年層の都市部への移住、就業形態の変化等に伴い団員確保が難しいという消防団を取り巻く状況が変化してきている中、多古町消防団でも入団者の促進を進めるとともに、多様化する災害に対応できるよう団員一丸となりより良い消防団組織づくりを目指しています。

東 西 南 北

東西南北 住宅用火災警報器の設置促進をチーバくんがアピール 松戸市東部消防署

松戸市東部消防署では、住宅用火災警報器の設置、普及促進を図るため、松戸市防火協会東部支部会員の皆様から全面協力をいただき、『設置して安心！住宅用火災警報器』のパネル看板を製作し、車庫前の目に付きやすい2階ベランダ外壁に年間を通して掲げることとしました。設置率100パーセントを目指して去る、6月25日にパネル看板掲出式を挙行政いたしました。

当日は、千葉県公認マスコットキャラクターの「チーバくん」も急遽、現場に駆けつけて署員とともに、東部消防署前で道行く多くの市民に《住宅火災では早期の発見、煙に巻かれる前にすぐに避難が大事！》と声を掛けて、奏功事例と合わせて設置効果を解説、住宅用火災警報器の設置促進及び維持管理の重要性を呼びかけました。また、松戸市防火協会東部支部会員と署員が手を取り合い、連携を強固にし地域の安心安全を守っていく誓いを新たにいたしました。



東西南北 「報道事務研修」を実施 千葉市消防局

千葉市消防局では、平成27年6月29日、30日当局講堂において、「報道実務研修」をテーマに、市役所の秘書課報道室から講師を招いて、各所属「広報主任」38名が受講しました。

今年で2回目の研修ですが、各種メディアからの取材や問い合わせ、これらの対応主体となる報道対応強化を主目的とし、今回の研修会を開催しました。

専用のチェックシートにより、現場報道対応、現場記者発表、災害問合せ対応を異なるタイプの相手に対して、どう対応するのかを再認識でき、職場でより適切な報道対応や広報活動ができるよう講師よりアドバイスを受け、大変有意義な研修会になりました。



東西南北 安全運転講習会を実施 柏市西部消防署



西部消防署では、交通事故防止の徹底を図る上で、安全運転講習会を実施しました。（平成27年7月14、27、28日）様々なコースを設け、運転技術及び誘導要領の向上、並びに機関員と誘導員の意思の疎通を目的としました。

機関員の運転技術に加え、各隊員の誘導要領を再確認し、乗車している全員が機関員という意識をもつことの重要性を認識することができました。





【千葉県消防長会違反是正推進連絡会・住宅用火災警報器設置対策連絡会の実施】

千葉県消防長会

千葉県消防長会では、平成27年7月9日(木)、千葉市(千葉市消防局)において、県内各消防本部の違反是正の推進及び住宅用火災警報器の設置対策を目的として連絡会を開催しました。

違反是正推進連絡会では、違反対象物の公表制度の条例化に向けた各消防本部の取組状況について意見交換が行われ、さらに、今後は重大な消防法令違反対象物の減少に向けて情報交換を活発に行うことを確認しました。

また、住宅用火災警報器設置対策連絡会では、住宅用火災警報器の設置促進及び更新に向けた対応について、各消防本部間の連絡を密にして更なる普及啓発に繋げていくこととしました。



幼少期における防火教育

印西地区消防組合白井消防署

印西地区消防組合白井消防署では、平成27年7月7日、管内の幼稚園、保育園を訪問し、寸劇を交えた防火教育を行いました。

これは、夏の行楽シーズンを迎え、バーベキューや花火など子供たちが火を扱う機会に接することから、着衣着火時の対処法(ストップ・ドロップ&ロール)と火災時の安全な避難方法(グレートエスケープ)の2つのプログラムを実施し、子供たちのサバイバル力の向上を目的として実施しました。



寸劇の台本や警報器のぬいぐるみなどの小道具を職員で作成し、幼児でも理解しやすく、興味を持ってもらえるよう日夜練習を重ね、完成度の高い寸劇に仕上がりました。

寸劇を見ている子供たちは、笑顔があふれる中にも真剣な眼差しがあり、実際にそれぞれの対処法を実施してもらいましたが、どの子供達も楽しみながら対処法を実戦でき、寸劇による防火教育の効果の高さを感じました。

また、「リスクウォッチ」より資料提供をいただき作成した“ストップ・ドロップ&ロール”の実施方法を記載したオリジナルうちわも好評で、各家庭へのPRにもつながると感じています。



総務大臣より感謝状贈呈

千葉市消防団

平成27年7月15日(水)総務省会議室において、千葉市消防団他21消防団に総務大臣より感謝状を贈呈されました。

総務省消防庁が、全国の消防団に対して団員が相当数増加した消防団、増加率及び増加数が相当である消防団や、女性消防団員の入団が多かった消防団に対して選考があったもので、千葉市消防団は増員に対して贈呈されました。

これからも、地域における消防防災のリーダーとして、それぞれの地域に密着し住民の安全と安心を守るという重要な役割を担い、様々なところで活躍してまいります。



【贈呈式の様子】



東西南北 応急手当ジュニアインストラクターいざ初陣!! ～こども救命講習会～ 千葉県消防局

千葉県消防局では、小中学生が指導者として、同世代の受講者に応急手当を指導する「応急手当ジュニアインストラクター制度」を始め、平成27年7月25日(土)市内2か所の講習場所でジュニアインストラクターが初めて救命講習会を行いました。

昨年度行われた、千葉県子どもの職場探検&ランチミーティングにおいて、「自分たちも大人の応急手当インストラクターと同じように応急手当を広めたい」「子どもが子どもに応急手当を教えたい」という子どもたちの提案のもと、この制度を新たに創設しました。

これからは、応急手当ジュニアインストラクターが小学校での救命講習や救急フェアなどのイベントのほか、スポーツクラブなどで友人の小中学生に大人の指導者とともに教えることで、より幅広い年齢層にまで応急手当が普及することを期待しています。



東西南北 第5回「一筆啓上火の用心サミット」を開催 君津市消防本部

君津市消防本部では、平成27年7月2日(木)・3日(金)、第5回「一筆啓上火の用心サミット」を開催しました。

「一筆啓上火の用心、お仙泣かすな馬肥やせ」、この簡潔明瞭な手紙は天正3年(1575年)戦国武将「本多作左衛門重次」が「長篠の合戦」の陣中から妻に宛てたものです。

この手紙は、日本で最初に「火の用心」を使ったとする説が有力とされ、「火の用心」の生みの親とも言われています。

この「火の用心」と「本多作左衛門重次」、そして作左衛門の子「お仙(本多成重)」に強く関わりのある市町村を管轄する消防本部、6つの消防本部(局)が、お互いに交流を深め友好都市になることを目的に、平成15年から3年に一度、手紙にまつわる「ゆかりの地」を順に巡りながら「一筆啓上火の用心サミット」を開催しています。

今回「第5回一筆啓上火の用心サミット」は、君津市で開催され、各消防本部(局)から消防長、消防団長、予防課長等、合計23名が出席し、火災予防に関する情報交換や親善交流を通じて、改めて「火の用心」の言葉の重みを受け止め、全国に火災予防の意気を発信して行くことを確認し合いました。



第5回 一筆啓上火の用心サミット 平成27年7月2日(木) 於: 君津市

《参画消防本部》

- ・嶺北消防組合消防本部(福井県)
「お仙」丸岡城主となった地
- ・岡崎市消防本部(愛知県)
「作左衛門」生誕の地
- ・浜松市消防局(静岡県)
「お仙」生誕の地
- ・新城市消防本部(愛知県)
「作左衛門」手紙を出した地
- ・君津市消防本部(千葉県)
「作左衛門」隠居地
- ・取手市消防本部(茨城県)
「作左衛門」終焉の地

東西南北 火災予防の横断幕設置 木更津市消防本部

木更津市消防本部では、平成27年8月、市民の防火意識高揚を図ることを目的とした横断幕を、木更津市危険物安全協会・木更津市防災協会・木更津市消防団の協賛により作成し、木更津市消防署波岡分署に設置しました。

この横断幕は、木更津市マスコットキャラクター「きさポン」の絵柄をいれることで、市民に親しみを感じてもらえるようにしています。



日々の動き

防災危機管理部／消防協会 共同編集

平成 27年 10月

- 10月10日 防火防災フェスティバル（西部防災センター）
 15日 全国女性消防操法大会（横浜市消防訓練センター）
 29日 第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会



平成27年度 全国統一防火標語

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」

平成27年度

秋の全国交通安全運動

9月21日(月)から9月30日(水)

スローガン

～ 外出は 明るい笑顔と 反射材 ～

<表紙の説明>

大多喜町役場中庁舎（大多喜町）夷隅支部

大多喜町の新たな観光名所として注目されるのが、大多喜町役場庁舎（中庁舎）です。

故今井兼次氏によって設計され、昭和34年に完成し、日本建築学会作品賞を受賞しました。

モダニズム建築の庁舎は、老朽化のため、解体し、新築する計画もありましたが、庁舎検討委員会で保存することが決定し、歴史ある公共空間を町民の方々が継続して今まで以上に利用できる形で修復、再生されました。

このことが、評価され、平成25年9月3日にユネスコ文化遺産保全のためのアジア太平洋遺産賞功績賞を受賞しました。

